

調査結果の報告

先日は、青年期の友人関係と自己に関する調査にご協力頂きありがとうございました。
調査の集計がまとまりましたので、概要につきまして、ご報告させていただきます。
なお、本調査につきまして、ご質問等がありましたら下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

金沢大学人文学類
岡田 努
okdttm@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

方法

今回の調査では主に以下の内容についての調査項目から成っていました。

友人関係の特徴

- ・相手から傷つけられることを避ける傾向(傷つけられ回避)
- ・距離をとってしまう傾向(距離確保)
- ・相手に気を遣って傷つけないよう付き合う傾向(傷つけ回避)

自己愛的過敏さ

他人から低く評価されて自分の自己愛が傷つくのを恐れ、そうした場面にならないようにする傾向

- ・自己顕示抑制
- ・自己緩和不全
- ・潜在的特権意識(表に出さないが内心では自分は特別な存在だと思う)
- ・承認・賞賛過敏性(人から認められているかを過度に気にする)

2つの自己愛傾向

- ・評価過敏性(他人から評価されないのではないかと怯える意識)
- ・誇大性(自分は特別な存在で他人より優れているという意識)

自意識

公的自意識:外から自分がどのように見えるかに意識が向きやすい傾向

私的自意識:自分自身の内的な状態に意識が向きやすい傾向

ふれ合い恐怖:対人恐怖的な心性の一種で、関係が深まることに困難を感じて避けてしまう傾向

- ・対人退却(対人関係全般から退いてしまう)
- ・関係調整不全(どうやってうまく人と付き合ったらよいか分からず困ってしまう)

ランチメイト症候群:一人で食事をしていると、友人がいないと思われるのではないかと怖れる傾向

自己意識

- ・公的自己意識:他者からの視線、外から見た自分をどれだけ意識するか
- ・私的自己意識:自分自身の内面の状態についてどれだけ意識するか

自尊感情:自分自身を尊重し高く評価する傾向

調査に参加頂いた人数(有効回答数)有効回答数 506名(男子 227名,女子 279名 18~25歳)

近畿,北陸,首都圏,甲信越の四年制大学生

調査時期 2010年10月~2011年6月

結果と考察

それぞれの調査内容の得点の平均値をグラフ化したものを図1に示します。

ここにあるように、友人関係については傷つけ回避など、相手に気を遣う傾向は女子の方が高い一方、距離をとる関係はやや男子の方が高いことが分かります。

また自己愛については「誇大性」(自分が偉いと思う傾向)以外は全般に女子が高く、逆に誇大性は男子が高いことが分かります。

また、女子の方が自意識やランチメイト症候群傾向が高い反面、「ふれ合い恐怖」は男子が高いことが分かります。

従来自意識の高さと対人恐怖は連動すると考えられてきましたが、「ふれ合い恐怖」はむしろこれと反する結果となっており興味深い結果と言えます。

またそれぞれの調査内容の関連度(相関係数)を表1に示します。

数値は

0が、両者は全く無関連

+1に近いほど、一方が高い人ほど他方も高いという関係

-1に近いほど、一方が高い人ほど、他方は低いという関係にあることを示します。

ふれ合い恐怖のうち

また関係調整不全と対人関係の間には高い+の関係が見られました。また「関係調整不全」は友人関係の「傷つけられることの回避」「傷つけ回避」「距離確保」ともに+の関係があります。一方対人退却は「距離確保」のみと関係がありました。

ふれ合い恐怖というのは、最近の青年に見られる対人恐怖の特徴で、関係の初期段階(顔見知りになる段階)は問題がなく、表面的な付き合いは難なくこなせるものの、関係が深まる段階で、一緒に会食したり仲良くなることに困難を感じるものとされています。「関係調整不全」と「対人退却」は異なる側面と考えられていましたが、両者の関係が緊密であることが見いだされました。

またこの「関係調整不全」は「公的自意識」との相関が高いことから、他者からの視線を気にする傾向を含んでいることが分かりました。従来「ふれ合い恐怖」は、むしろ他者からの視線を気にしないように自分に籠もってしまう傾向と考えられてきましたが、それとは異なる側面が含まれている可能性があります。

自己愛には、他者から評価され続けていないと不安になる評価過敏な側面と、自分自身を過大評価する誇大的な面があります。これまでの研究で、ふれ合い恐怖の人は誇大的な面があるのではないかと言われてきました。表を見ると「誇大性」との関係は殆ど見られませんが「潜在的特権意識」との間で+の関係がみられます。つまり、外にあからさまに示さないところで、自分を誇大に意識しているものの、それが簡単には満たされないために他者から退いてしまう傾向が見られると言えるでしょう。

ランチメイト症候群は、食事場面における不適応という点ではふれ合い恐怖と共通した問題と考えられますが、ランチメイト症候群は他者の視線に過剰に敏感になった結果であり、一方、ふれ合い恐怖は、他者と関わることを初めから退けることで自分を守る傾向と考えることができます。しかし、今回のデータを見ると、「関係調整不全」とは+、「対人退却」とは-の関係にあり、このことから、他者の視線を気にするランチメイト症候群と「関係調整不全」が類似した性質を持つ可能性が考えられ、「ふれ合い恐怖」の中でも、性質の異なる側面があると言えるでしょう。

以上、現時点で分かっている分析結果を簡単にご報告致します。今回のデータの一部は本年度開催される日本教育心理学会第53回総会で『現代青年の友人関係とふれ合い恐怖的心性 再考』と題して学会発表致しました。詳細な分析手順などはそちらの発表論文集にも掲載されております。今後論文化にあたりデータを加え、より詳細な分析を行いたいと思います。

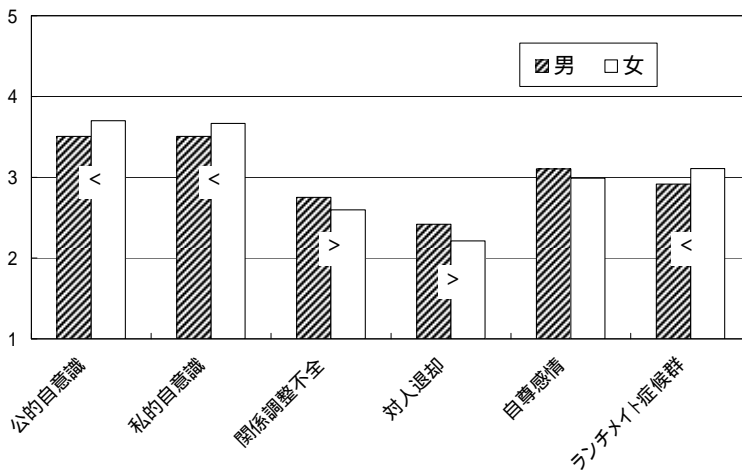
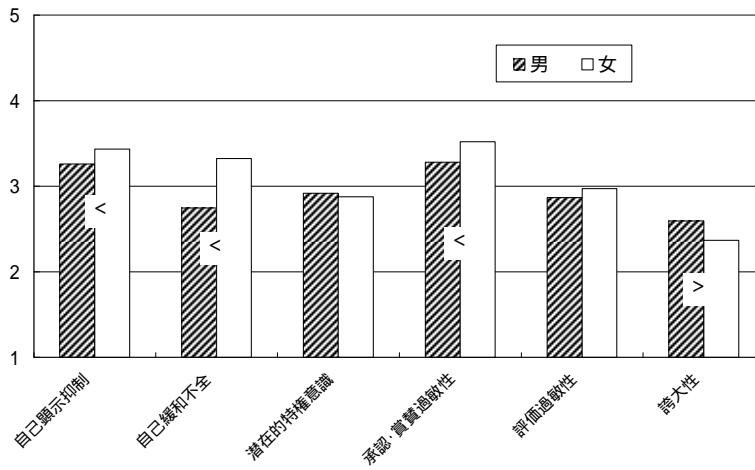
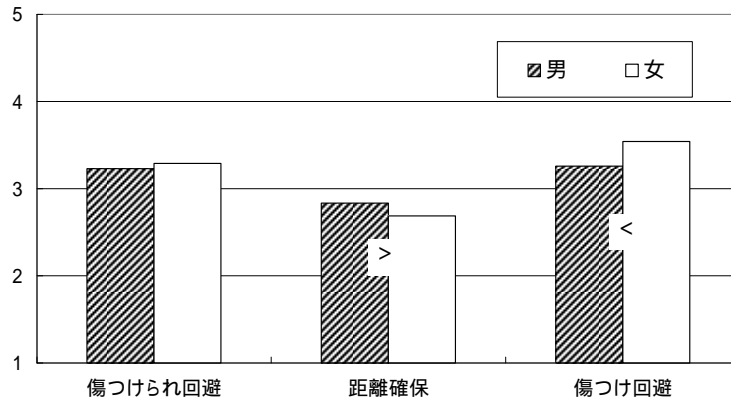


図1 各変数の平均値と男女の得点差

表1 ふれ合い恐怖,ランチメイト症候群傾向と友人関係,自己愛の関連(相関係数)

	ふれ合い恐怖		
	関係調整不全	対人退却	ランチメイト
対人退却	.517		
友人関係			
傷つけられ回避	.303	.075	.194
距離確保	.252	.383	-.090
傷つけ回避	.157	-.011	.159
自己愛			
自己顕示抑制	.315	.177	.094
自己緩和不全	.048	-.273	.278
潜在の特権意識	.331	.211	.157
承認・賞賛過敏性	.414	.047	.365
評価過敏性	.518	.244	.326
誇大性	-.101	.043	-.067

	関係調整不全	対人退却
ランチメイト	.223**	-.240**

	公的自意識	私的自意識	自尊感情
ふれ合い恐怖			
関係調整不全	.390	-.007	-.375
対人退却	-.008	.058	-.196
ランチメイト	.440	-.102	-.186
友人関係			
傷つけられ回避	.505	.070	-.143
距離確保	.038	.041	-.167
傷つけ回避	.333	.127	-.074
自己愛			
自己顕示抑制	.396	.205	-.314
自己緩和不全	.347	.157	-.067
潜在の特権意識	.424	.185	.041
承認・賞賛過敏性	.628	.159	-.303
評価過敏性	.597	.125	-.367
誇大性	-.038	.282	.617